D

平成 28 年度　第３回
「前畑弾薬庫跡地利用構想検討有識者会議」参考資料Ｉ

前畑弾薬庫の跡地利用の検討に係る関係者ヒアリング

結果報告書

平成２９年１月２６日（木）

佐世保市　基地政策局

前畑弾薬庫跡地利用構想検討に係る関係者ヒアリング
結果報告書

目　　次

１　ヒアリング実施概要 1
（１）目的 1
（２）ヒアリング内容 1

２　ヒアリング結果 2
（１）関係者Ａ 2
（２）関係者Ｂ 3
（３）関係者Ｃ 3
（４）関係者Ｄ 6
（５）関係者Ｅ 7
（６）関係者Ｆ 8
（７）関係者Ｇ 8
（８）関係者Ｈ 9

1 ヒアリング実施概要

（1）目的

前畑弾薬庫跡地利用の考え方について、市政に関わるトップ、地域住民、近隣の事業者などの関係者に対して個別にヒアリング（意見聴取）を行い、外部検討組織である「前畑弾薬庫跡地利用構想検討有識者会議」での検討の参考とする。

（2）ヒアリング内容

1）ヒアリング対象者

下記のとおり対象者を選定した。

職名等	選定の理由等
佐世保市議会議長	議会のトップ
佐世保市商店街連合会　会長	市内の商業関係
佐世保地区造船工業協同組合　理事長	弾薬庫近隣の事業者関係
佐世保旅客船協会　会長	
佐世保青年会議所　理事長	若者の視点
佐世保工業高等専門学校　校長	市内の研究機関（技術系）
佐世保商工会議所　女性会役員の方（任意）	女性の視点
佐世保市女性人材登録関係者の方	

2）ヒアリング方法

前畑弾薬庫の概況等を説明した後、その跡地利用に係る活用策等について、インタビュー形式による ヒアリング(意見聴取)を行った。

3）実施期間

平成 28 年 12 月 9 日（金）～12 月 22 日（木）

２ ヒアリング結果

（１）関係者Ａ

１）跡地利用の活用策について（跡地について、どのように活かすことが良いと思うか。）

○観光

・残された遺産は、良い意味で「宝物」、歴史遺産である。

・レンガ造りの建物・倉庫群を活用した特徴あるまち、文化村を作ってはどうか。

・倉庫を活かしたレストランや宿泊施設なども面白い。

○ネットワーク

・干尽公園に佐世保湾やまちなみを見渡せる展望施設を作ってはどうか。そこから弾薬庫へのネットワークも構成できるだろう。

・鎮守府ルートに組込んではどうか。

・軍港クルーズに活用すべきだろう。

２）上記１の活用策を実現するための課題等について

○観光

・今は特にお客様目線が重要であり、個人客をしっかり受け止められることが必要である。

・市民の生活感がないと観光は成り立たない。

○公園

・前畑弾薬庫は、佐世保市民が意識していない。「どこ？」という感じだろう。

・佐世保は海に囲まれていながら親水性がなく、水辺がない。

・みなとＩＣから出て軍港・護衛艦をゆっくり見学できるところがない。

○道路

・「アクセス道路の確保」と「入口の入りやすさ」は人を迎える上での大前提。

・現道路の拡幅と前畑崎辺道路を連動させてアクセスのしやすさを確保すべし。

○宿泊施設

・ハウステンボスが光の王国を始めたおかげで、人が増え、佐世保にも来るが、ホテルは足りない。

３）上記２の課題解決等について（課題解決等に向けての具体の取組み、考え方など）

○観光

・観光業者に頼らず、まちづくり会社を起こし、市民と一緒に考えるなど民間主導でまちづくりを進めるべき。

・町名からみんなで考えてもおもしろい。

４）その他

○他所の事例

・新潟むらかみは、戦災を受けていないため昔ながらの町家が残り、実際に生活がある。

・豊田も古い家を残した。

・茅ヶ崎も開かれたまちづくりを進めた。
・アメリカのポートランドで工場倉庫群跡を公園化し、リスも生息するような自然あふれる市民の憩いの場を作った。
・函館の倉庫群も観光名所になった。
・星野リゾートは運営のやり方を提供した。お客様がどういったものを求めているか、ニーズを徹底的に掘り起こす。

○当人（関係者Ａ）の思い、使命（なぜ、まちづくりに一生懸命なのか）
・町を一緒に残していく、考えていくのが商店街の役割。

（２）関係者Ｂ

１）跡地利用の活用策について（跡地について、どのように活かすことが良いと思うか。）

○港湾
・地形的特徴を活かした造船事業の強化
・干尽公園の山が北風を遮り、良好な港湾を形成している。
・山林部が住宅地との緩衝帯となり、造船業の騒音等の軽減になっており、さらに、塗装等の臭いによるクレームも軽減されると考える。
・台風等の時には、避難港になっている。
⇒現状の利用形態で十分である。

○産業
・組合の会合では、「工業団地として開発案」が出ている。

２）上記１の活用策を実現するための課題等について

○工業団地の増設案
・湾を埋め立てるので、現在の造船業に支障が出る。

○アクセス性の向上
・崎辺地区へのアクセスにおいては、弾薬庫を迂回しているため、遠回りである。
・弾薬庫内の道路を通過できれば、アクセス性が高まる。

３）上記２の課題解決等について（課題解決等に向けての具体の取組み、考え方など）

○工業団地の増設案
・干尽公園の山を削り、出てきた土で湾を埋めて造成し、土地を確保する。
・面的な広がりをもつ工場（工業）団地を開発する。

（３）関係者Ｃ

１）跡地利用の活用策について（跡地について、どのように活かすことが良いと思うか。）

○環境
・美しい海辺の景観を癒しや憩いの場としての公園・緑地をメインに配置する。

○観光
・旧軍港としての貴重な遺構施設であり、近代化遺産にもなっている建造群については、一部保存して、歴史や平和を学べる場としても活用する。

・現在、軍港クルーズが運航されているので、寄港できる小型浮き桟橋を設けて自由に上下船できるようにする。(固定的な桟橋ではなくコスト重視の浮桟橋を設置)

○教育

・海・船・佐世保港について学ぶことができる図書室、美術室、体験工房、セミナー室、カフェ等を揃えた複合施設。

・市民だけでなく、観光客が海辺や行き来する多様な船を眺めながらのんびり過ごしつつ、学べる空間の提供。

・海軍カレー、させぼバーガー、九十九島牡蠣等の飲食施設を計画。

・造船に関するものづくりで発展してきた佐世保の今後を担う子供たちのために、自由にモノづくりの体験できる工房を常設。

・社会人及び市内在住外国人にも開放。

・３D 設計ツールや３D プリンタ、旋盤、ボール盤、フライス盤などを設置。

・運営には物づくり OB をボランテイアとして配置し、指導。(シルバー世代の生きがい創出)

・ロボコン等のものづくりの得意な佐世保高専の学生も活用(佐世保高専では、市内小中学校や米海軍基地内小中高校へのものづくり等の出前授業や相互国際交流をおこなっており、経験とノウハウを持っている。英語上達への動機付けにもなっている。)

・テーマを決めて半年ごとにコンテストを実施。

・長崎県立大や長崎国際大の教授陣による船、海、佐世保市の歴史や現在に関するセミナーを市民開放講座として、同時開催。

・最近、第 4 次産業革命として「インダストリー4.0」が急激に進行しており、ロボット、IoT (Internet of Things)、人工知能等の技術革新、イノベーションが避けて通れない時代となっている。こうした分野についても学べる環境が必要であり、県北唯一の理工系高等教育機関である佐世保高専の研究者と市民・子ども・外国人と交流できるセミナー室を整備する。高専の教授陣が毎月得意なテーマでの市民向け講演会・研究会・技術相談会を開くことのできるスペース・インターネット環境を提供する。

○研究

・長崎県が推進しているグリーンニューデイール政策により、五島沖での浮体式洋上風力発電、潮流発電等の再生可能エネルギー開発やそこで必要な海洋ロボット、水素船の開発、インテリジェント生簀、赤潮調査用ロボット等の開発が緊急の課題とされている。

・今年、長崎県は長崎大学、長崎総合科学大学、長崎県海洋産業クラスター形成推進協議会の 4 者協定を締結した。さらに、長崎大学には海洋未来イノベーション機構を組織して推進する体制ができあがっている。

・しかし、具体的に海洋ロボットや海洋機器を開発した場合、日本海事協会が船舶について行っているような検定基準が定まっていないために、「海洋機器のインダストリー4.0」を実現するために必要な評価実験する場所が日本にはまだない。

・今後、前畑地区にそうした評価・検定認証施設を作ることは今後の日本の海洋開発に対する技術力向上のために大きく貢献できるエリアとなる。

・日本中の海洋ロボットや海洋機器に関する研究者、技術者が多数訪問することに繋

がる。

・佐世保市の造船業界にもよい影響を与えると考えられる。

＜背景＞：長崎市には施設建設の余地がなく、五島まで、毎回、海洋ロボットや海洋機器を運搬して認証をうけるには、アクセスに問題があると思われる。長崎県は海洋実証フィールドとして 3 カ所指定をうけており、海洋開発に関する先進県となっているという背景がある。佐世保湾から更に奥まっており海面的も最適な場所である。

＜参考：日本海事協会の業務の例＞造船設計図面の審査及び承認、船級及び設備の登録検査、船級及び設備の登録維持検査、材料、機器並びに艤装品の承認といった船舶のハードに関わる業務から、船舶安全管理システム審査や船舶保安システム審査登録のような船舶のソフトに関わる業務まで幅広くサービスを提供している。

○産業

・トンネルの活用策として、一年中定温、定湿な環境を利用した農作物の栽培（例えばキノコ類）の試験研究に活用する。

2）上記１の活用策を実現するための課題等について

○環境

・豊かな自然環境を壊さないで、上記の施設や環境整備をする場合のマスタープラン決めが課題である。

○教育

・それぞれのゾーンの配置も重要であり、複合的な目的を持たせることのできるエリアであってほしいため、例えば、学びの合間の息抜きや、モノづくりの合間の息抜き等組合せが自在にできる動線をいかに実現するかが課題である。

○研究

・「海洋機器インダストリー4.0」実証評価施設の検討機関として、日本海事協会、大学（長崎大、九州大、九州工大、東大、東京海洋大等）や海洋開発研究機構(JAMSTEC)等研究機関との調整検討が課題である。学校等への転用は現在認められているが、研究機関として対応可能かどうか調査する必要がある。

○産業

・トンネル環境でどのようなものが栽培できるか農林関係機関へ相談・検討できるかが課題である。

○アクセス

・現在交通アクセスとしては市バスが前畑行を運行しているが、一日４本と少ないので、増便する必要がある。

・軍港クルーズを活用するなら、専用の格安チケットを用意するなどができるかが課題である。

・背景にある天神公園や千尽公園とリンクするためのプロムナード小道作りをすると、天神町循環バスが利用できるが、多少自然林の伐採と小道作りが課題となる。

3）上記２の課題解決等について（課題解決等に向けての具体の取組み、考え方など）

○環境

・海辺の景観を生かすためには 1 階建ての建築物で、自然にマッチするデザインを実

現する。

○観光

・佐世保市や交通局、観光協会等との連携で、訪問する人数を増やせるような施設つくりをすると実現する。

○教育

・全国のコンサル業者や市民へのコンペを実施して、じっくり構想を検討されることが課題と思われる。市内の子どもたちへはスケッチ（絵）で表現してもらうのも一案だと思われる。

○研究

・長崎大学工学部山本郁夫教授が提唱者でもあり、国内、海外に関連人脈が太いので相談するとよいと思われる。更に、建設コストを極力かけないために、移動可能な網による実験エリア作り等を検討する。(日本海事協会として認めてくれるかは事前確認の必要があるかもしれないが、全国にはまだなく、全く未知のために逆にイニシアチブを発揮することが可能であるとも思われる)

○産業

・商業的なものではなく、あくまでも研究・商品開発の面での利用をめざすために、農業試験場や農業高校との連携で進める。

○アクセス

・天神公園へのアクセスは砂利式で木製階段とすることで自然と調和させることができる。

4）その他

・立地的には、佐世保湾内で最も自然が残され、景観的もすぐれた場所であるので、歴史的な近代化遺産としての建造物と未来とを調和した跡地利用が望まれる。できるだけ現状の自然や施設を維持しつつ、エリアを癒し、観光、学び、未来を担う子供たちのための活動エリア、地元産業と関連した新技術振興エリアとして活用する。隣接する天神公園とのリンクすることもアクセス面で検討の価値がある。将来的には、海自教育隊のある崎辺地区へのアクセス基幹道路が建設されると一層利用されやすくなると考えられる。

（4）関係者D

1）跡地利用の活用策について（跡地について、どのように活かすことが良いと思うか。）

○観光

・弾薬倉庫群だけでは、人は来ないので、プラスワンの魅力創出が必要だろう。

・軍港クルーズが好評（実績：9 月、11 月とそれぞれ約 1000 名が利用）である。利用客は、若い人が多く、艦船を間近で見ることができるなど人気がある。

・佐世保駅からクルーズ船に乗って、湾内をまわり、前畑に着けて、弾薬倉庫を見学し、歴史を学んでもらう。横に海軍カレーなど販売したら、買い物にもつながる。プラスワンのアイデアが必要である。

2）上記１の活用策を実現するための課題等について

○前畑を観光で利用する際の課題

・海からの視点・アクセスを考えることが佐世保のポイントである。
・クルーズ発着所をどこにするか。
・駐車スペース、特にバスの寄り付きをどこに確保するか。
・弾薬庫外の倉庫も含めて、一体で活用するか。
・敷地内の移動手段をどうするか。

３）上記２の課題解決等について（課題解決等に向けての具体の取組み、考え方など）

（特にコメントなし）

４）その他

・大型客船の入航について協議した際に、赤崎沖のブイ（5～6 個）の撤去を米軍に依頼したところ、ことのほかスムーズに対応したため、こちらの意図を示すことは重要である。
・海上自衛隊艦艇の一般公開は、観光客に人気がある。
・佐世保湾には民間の定期船が寄りつける港湾が少ない。
・倉島岸壁海上自衛隊を崎辺への移転を提案し続けている。
・倉島の海上自衛隊を崎辺へ移転し、民間へ開放すると、２バース体制で港湾能力の強化、佐世保港のすみ分けにつながる
・造船所が少なくなっているため、前畑クラスの造船所が頑張ってほしい。
・造船業は騒音の問題があるが、現在の地形、住宅地との離隔は理想的な形といえる。

（５）関係者Ｅ

１）跡地利用の活用策について（跡地について、どのように活かすことが良いと思うか。）

○子育て支援

・佐世保は、人口は減っているが出生率は高いらしいので、子どもが大きくなっても他県へ出ていかない仕組みが求められると考える。
・子どもを産んだばかりのお母さんの支援として産後ケア施設（産後１か月のデイケア施設）が望まれる。

○子どもの遊び場づくり

・子どもを自由に遊ばせるスペースが不足している。
・雨の日に遊べるところがない。
・まちなかは駐車場が有料な為、行くのをためらう。
・子どもが水辺に親しむ場所があると楽しい

○観光

・まちなかに近い場所でのトレッキングや、水辺のカヌー教室など立地の特性を活かす。
・近代化遺産は新たな佐世保のランドマークになるだろうから、観光に使わない手はないだろうと考える。
・弾薬庫跡を展示施設として歴史を伝える場になると良いと思う。

○住宅

・景観をうりにしたマンションを販売すれば人気が出るだろう。
・敷地が広いので、複数の用途があるのだろうと想像する。

２）上記１の活用策を実現するための課題等について

（特にコメントなし）

３）上記２の課題解決等について（課題解決等に向けての具体の取組み、考え方など）

（特にコメントなし）

（６）関係者Ｆ

１）跡地利用の活用策について（跡地について、どのように活かすことが良いと思うか。）

○観光

・佐世保は、観光振興を PR しているが、宿泊施設が少ないと聞くので、歴史的に価値のある建物（弾薬庫の一部）を残し、その建物の活用を含めてホテル運営を行う。その際、ノウハウを持つ会社に運営を任せて、ハウステンボスと連携してアドベンチャーランド的な利用ができないか考えている。雇用と観光客誘致の側面での効果が一定期待できるものと思われる。

・佐世保独自の体験型の人材研修施設的なものをつくり、人材育成に寄与する。例えば、民間会社等の人材研修等の一環で、研修を請け負う形での運営形態でもって、そこの講師には自衛隊隊員（現役の教官）をお迎えし、使命や規律、各種体験などの研修を行う。

※上記活用策について、行政主導でなく、民間のノウハウを活用した方法を想定。

２）上記１の活用策を実現するための課題等について

（特にコメントなし）

３）上記２の課題解決等について（課題解決等に向けての具体の取組み、考え方など）

（特にコメントなし）

（７）関係者Ｇ

１）跡地利用の活用策について（跡地について、どのように活かすことが良いと思うか。）

○産業

・厳しい財政状況の中、全てを市が担うことはあり得ないと考える。
・海に向かい船が着岸できる立地特性を活かし、平地を使って工業団地を造成する。

２）上記１の活用策を実現するための課題等について

○目的

・「結婚・出産・子育て」しやすいまちを目指す地方創生につながることが望ましい。
・観光地の連携・すみ分けと、雇用を生み出す産業振興が重要である。

○目標年次を見すえた構想づくり

・どの時点に照準を絞るかは重要な視点であると考える。
・将来、人口構成は確実に変わる。
・人口は減り、住宅は余るので、「住宅建設」はあり得ない。

〇観光

・ハウステンボスと前畑弾薬庫、パールシーが連動し、観光客が滞留するような仕掛けが必要と考える。

3）上記２の課題解決等について（課題解決等に向けての具体の取組み、考え方など）

（特にコメントなし）

4）その他

〇跡地返還について

・佐世保ならではの歴史は伝えていくべきだと考える。

〇Web アンケートの選択肢を参考に

・跡地の利用の方向性について、「観光、景観関係」と「産業振興関係」が望まれる。
・跡地利用に望まれる施設や用途について、「倉庫群を活用した観光施設」や「工場や倉庫等の生産・加工・流通施設」と考える。

（8）関係者H

1）跡地利用の活用策について（跡地について、どのように活かすことが良いと思うか。）

〇観光

・現在、就航している「軍港クルーズ」の一環として、波止場的なところに船を寄港させて、歴史的に貴重な建物（パゴタ式）を活用する方法があると考えている。
・具体的には、散策コースという形で、その建物をカフェテリアまたはレストハウスとして利用してはどうかかと考えている。
・全てのエリアという話にはならないので、部分活用になるものと考えている。
・今回の跡地利用の検討について、港全体、また歴史的背景を踏まえ、いわゆる港のすみ分けに資する検討も重要と考えている。

2）上記１の活用策を実現するための課題等について

（特にコメントなし）

3）上記２の課題解決等について（課題解決等に向けての具体の取組み、考え方など）

（特にコメントなし）

4）その他

・以前、米海軍佐世保基地司令官のダンスコム大佐（任期 1997 年～2000 年）と一緒に弾薬庫内を徒歩で山林部を含めて全て回ったことがある。
・今回のヒアリングに関して、初めて佐世保に来た人に聞くことも一つの方法ではないか。
・また、文化の違い（感覚の違い）という視点で、米海軍佐世保基地司令官、同夫人を始め、米軍関係者に聴きとるのもあるのではないかと思う。特に、女性に聴ける

機会があれば良いと思う。

・上記の「文化の違い」に関して、旧日本海軍がパゴタ式の弾薬庫を使用していた当時、２階の回廊部分で「火」（恐らく火鉢と思われる）を使って居住していたという記録がある。それを見た米軍関係者は弾薬庫内に火器を扱うことにカルチャーショックを受けていた。また、弾薬庫の周囲に避雷針がなかったことにも同様のショックを受けていたようだ。米側は雷に敏感であるが、旧日本海軍はあまり意識していなかったという文化の違いに驚いていたようだ。

・前市長は、ボストンの街なみをイメージして（古い港まち等）、港を中心とした理想的なまちなみを考えていた時期があった。